

ワークショップ:タイムアクシスデザインの未来

日時

9月25日(金) 10:10~12:00

趣旨

このワークショップでは、設計のさまざまな応用分野、方法論に共通する視点として「時間軸」について議論します。人々の価値観の変化、人工物の劣化や故障、庭園のように時々刻々変化、成長することを織り込んだ設計、地球温暖化のような持続可能性の問題、全て時間が関係してきます。このように、設計された人工物（ものとサービスを含む）が投入される使用環境、つまり、使用者、周囲の状況、インフラ、社会、制度は常に変化するものですし、その変化に応じて、設計された人工物の使われ方、性能も変化して行きます。これに従って、設計された人工物の価値、効用は向上することもありますし、逆に副次的な弊害をもたらすこともあります。このように、時間変化とそれへの対応は人工物の設計において重要な要因ですが、これまで明示的、一般的な方法で扱われてこなかったのではないのでしょうか。しかし、価値が成長するデザイン、価値寿命評価、持続可能社会シナリオ設計など、設計工学の個別分野ではこの問題を扱う方法論が散見されるようになってきました。そこで、分野や方法論に跨がって横断的に「時間軸」に関わる設計を参加者の皆さん、話題提供者で議論することで、設計工学における本質的な共通課題を抽出できるのではないかという期待を込めて、このワークショップを企画しました。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

プログラム

本ワークショップでは、まず、時間軸を明示的に意識した設計を長年提唱している松岡先生から「タイムアクシスデザインとは？」というタイトルで、タイムアクシスデザインの全体像を示して頂きます。次に、設計の各応用分野、方法論における時間軸の扱いの特徴や問題意識について2つの話題提供を頂きます。まずは、下村先生から製品サービスシステム分野におけるタイムアクシスデザインについて、次いで、梅田先生からライフサイクル工学分野でのタイムアクシスデザインについて。さらに、タイムアクシスデザインの考え方を実践されている古郡様に「使えば使うほど価値が成長するモビリティシステム」というタイトルでマツダにおける事例を含めてお話し頂きます。最後に、話題提供者全員によるパネルディスカッションの時間を設け、会場の参加者の皆さんを含めて議論を行いたいと考えています。

10:10~10:15 ワorkshop 趣旨説明(東京大学 梅田靖)

10:15～1:35 「タイムアクシスデザインとは？」(慶應義塾大学 松岡由幸)

10:35～10:50 「製品サービスシステム(PSS)開発とタイムアクシスデザイン」(首都大学東京 下村芳樹)

10:50～11:05 「ライフサイクル工学におけるタイムアクシスデザインの必要性」(東京大学 梅田靖)

11:05～11:35 「使えば使うほど価値が成長するモビリティシステム」(マツダ技術研究所 古郡了)

11:35～12:00 話題提供者全員によるパネルディスカッション(司会:下村芳樹)

オーガナイザー

下村芳樹(首都大学東京)、梅田靖(東京大学)、松岡由幸(慶應義塾大学)